

第13回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和3年2月19日（金） 午前10時00分～午前11時50分
- 2 開催場所 WEB会議
- 3 出席者 <構成員>
東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
県農林水産部水産局漁業資源課長 小嶋 一隆
県水産総合研究センター次長（資源研究室長事務取扱） 梶山 誠
<その他>
県関係職員14名

4 検討事項

- (1) 令和2年度千葉県資源評価票（案）について
- (2) 資源管理計画の評価検証（案）について
- (3) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

(1) 令和2年度千葉県資源評価票（案）について

事務局から趣旨説明を行った後、資源評価候補種及び評価対象候補種について各担当者から令和2年度の資源評価結果について、及び評価候補種の資源状況・漁獲動向について、また、サヨリ、トラフグ、ホンビノスガイ及びコウイカについては研究の進捗状況について併せて報告があった。各説明の終了後に、議長から構成員に意見を求めた。主な質疑等は以下のとおり。

- ・議長から、アサリの資源動向が不明となっている理由について質問があり、担当者から、資源量が少なく指標値の振れ幅が大きいため、既定の方法で判断が難しかった旨回答があった。
- ・構成員から、ヒラメを太平洋北部系群と中部系群に分けて評価した理由について質問があり、担当者から、本年度から漁獲量変動や稚魚分布の観点から系群を分けて評価を行う旨回答があった。
- ・構成員から、ホンビノスガイ資源は減少局面に入ったようにみられる旨の意見があり、担当者から、2016年以降は稚貝発生も少なく、漁獲圧も高まっているが、2019年の江戸川からの大水による三番瀬への泥の堆積などの環境変化も要因と推測される旨回答があった。

（２）資源管理計画の評価検証（案）について

事務局から趣旨説明を行った後、各担当者から令和２年度の評価検証対象である資源管理計画の評価検証結果（案）について説明があり、構成員の意見を伺った。

- ・ 構成員から、現状で操業実態のない資源管理計画については資源管理の意義がないため、更新しないことも視野に入れるべきではないかとの意見があり、担当者から、今後の資源管理協定への移行にあたって認定基準が変わることから、協定への移行と併せて検討していきたい旨回答があった。
- ・ 構成員から、各取組の中でマダイ・ヒラメの小型魚保護についても重要な取組であることから、効果の検証の欄にも記載した方が良い旨の意見があり、担当者から、意見のとおり修正する旨回答があった。
- ・ 構成員から、データ不足で CPUE による評価ができない計画の扱いについて質問があり、担当者から、今後は関係する漁協への働きかけとともに、国の施策とも連携しながら、データ収集の強化を図りたい旨回答があった。

（３）その他

事務局から今後のスケジュールについて説明があった。